

季節のことは

茗荷(ミョウガ)は夏の到来を告げる季節の食べ物だった。好き嫌いはあるにしても芳香と感触のよさは群を抜いている。細かく刻んで素麺やうどんの薬味にする。味噌汁の具に入れても美味しい、漬物にしてもいい。よく茗荷を食べすぎるとバカになる、とか忘れっぽくなるなど注意さ

れたものだが根拠は不明。「魏志倭人伝」には邪馬台国の草や木について記述があるが、その中に「……裏荷あるも滋味と為すを知らず」で、三世紀の日本人は茗荷を食べなかつたらしい。現在日本では早出し茗荷はバカ高い値段をつけるが、今は夏本番/茗荷を食べよう。

あなたと三笠をおすぶホット情報

三笠のニュース

PR旬報/年4回発行
発行所 三笠産業株式会社
郵便番号101-0064 東京都千代田区築港1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530

新製品 前後進バイブロコンパクト 超小型の油圧式

MVH-R60型 / 油圧式は世界標準

重輾圧が得られるとご好評を頂いております三笠バイブロコンパクトシリーズに、自重60kgクラスの使い易い油圧バイブロが新たに加わりました。

このMVH-R60型油圧バイブロコンパクトは、MVH-100及び150型で実績があり信頼性の高い油圧切換機構を採用しておりますので、レバー一本の操作で滑らかで思いのままに前進・中立・後進の操作が出来ます。更にこのR60には後進切換時のショックを和らげる新油圧機構を追加しましたので、特に後進時のドーザー現象(土砂の押しこくり)が全く無くなり、仕上がり面をより滑らかにする事が出来る様になりました。勿論スピードコントロールも行える上スポット輾圧も容易に出来ます。公園や駐車場、道路の側溝、アスファルト仕上げ、上下水道等の埋設工事には、小回りのきくMVH-R60型が最適です。

オペレーターの安全を重視し前後進レバーを離せば自動的にそのレバーが後進から前進に切換わるデッドマン機構をとっております。そして、ベルトカバー内には指等が入りにくい密閉構造を採用しておりますので、安心してご使用頂けます。

輾圧盤は、作業中に入り込んだ砂などが自動的に外へ排出されるセルフク

仕様

型式		MVH-R60
機体寸法 mm	長さ	870
	幅	350
	高さ(ガードフック)	600
	高さ(ハンドル)	850
輾圧盤寸法 mm	長さ	480
	幅	350
	厚さ(最大)	14
振動数	Hz(v.p.m.)	100(6,000)
速心力	kN(kgf)	15(1,530)
速度	m/min	0~25
質量	kg	64
エンジン型式		ホンダ GX120
最高出力	kW(PS)/r.p.m.	2.9(4.0)/4,000
連続定格出力	kW(PS)/r.p.m.	2.1(2.8)/3,600
セット回転数	r.p.m.	3,600



リーニング構造を採用しましたので、除去清掃作業が簡単に行えます。溝内での作業を考慮し、ハンドルにスロットルレバーを標準装備しました。また、ハンドル高さを最大60cmにまで下げられるので、溝内の梁の下を難なく潜り輾圧する事が出来ます。

中央部に一点吊りフックを取り付け、エンジン上面には土砂等の侵入を防ぐようにカバーを取り付けております。また、便利な移動車もオプションとして用意致しました。

環境面を第一に考えEPA排ガス規制値をクリアするエンジンを搭載しています。オイル交換が容易に出来るようにオールドレンホースを標準装備しています。

MVH-R60型の登場で、三笠の前後進バイブロコンパクトシリーズは、これまでの100/150/200/300/

400/500/700型とワイドバリエーションとなりユーザー皆様方の多様性、経済性と現場のニーズに合わせて機種をお選び頂き、幅広くお使い頂けるようになりました。

昨今我国では、行政改革・大型公共工事見直しと叫ばれるようになり、住民密着型のインフラ整備の工事が主体になってきました。特に環境問題の見地からも上下水道の普及に力が入られています。下水道普及率は都市部の80%に対し地方は50%以下と欧米に比べ極端に低いのが現状です。今後は電気・ガス・通信ケーブル等も含め地中埋設工事は増える傾向に有り、交通事情や騒音対策からも迅速な工事が要求されています。この時代にお応えするのが小型でありながら重輾圧のMVH-R60型バイブロコンパクトです。常に妥協を許さず新技術を投入



朝刊を手にとると書籍広告に目をやる。三段八割というスペース。各新聞第一面を飾る品位ある広告欄である。昨今すこし様子が変わった傾向もみられるが、本来は明朝体とゴシックの二書体だけを使うという厳しい規約からなりたっている。絵や写真、マークなどの使用も一切不可。こうした制約の中で、いかに気品を保ちながら効果ある伝達をするか、その制作の苦心を思いやることもある。

本好きはある種の病気かもしれない。若いころの精読や乱読はごく自然の成り行きだったろうが、後年におよんで本の内容より「本」そのものに囚われているような気がする。先年『装釘考』という題名のひどく高価な本を何等ためらいもなく買ってしまった。白黒を清楚に活かした外箱の堅牢な造りと、本体の厚さにしては意外の軽量、それが衝動買いの決め手になったようだ。標題が標題だけに本文用紙もよく吟味されている。字組みも好ましい。読まなくても見るだけで嬉しいのである。やはり一種の病気かもしれない。

売らんかな主義の類似書籍が大氾濫の時代に、このような本を見つけると無上の幸せを感じる。いたずらに昔を懐かしむのではないが、堀口大学や谷崎潤一郎のように装丁にもこだわった出版は姿を消した。いまや「本」は液晶の上で自在に料理され、スピードと量産化で店頭に出される。ベストセラーの怪しい旗の下で「本」は使い捨てされる。だからそれに見合う程度の「本」しか生まれられない。それでも本好きは書店散歩がやめられず、先日は『世界製本装丁界の巨匠ティニ・ミウラの世界』という豪華本の餌食になったが、病人の仲間がいると知ってやや安堵したのだった。

して来た三笠の自信作油圧バイブロシリーズ共々、ここに紹介しましたMVH-R60型バイブロコンパクトを是非ご使用頂きますよう宜しくお願い致します。

『バーマ展2001』出張記

サッカーの夢に酔いビールを研究し ベンツ初運転！そして仕事も……

「やはりここはドイツなんだ」

ミュンヘン市内で一番大きなビアホールの前を通りかかった時にそう思った。いったい何人いるのだろう。絶叫してはしゃいでいる者もいれば、肩を組んで訳のわからない歌を歌いまくっている輩もいる。殆どの人が同じユニホームを着て酔っ払っている。それを見た時、ここはサッカー大国“ドイツ”である事を思い出した。それも、欧州の中で数本の指に入る強豪チーム“バイエルンミュンヘン”の本拠地である。その瞬間、何故か感動してきた。ミーハーな小生は、ご多聞に漏れず最近半端なサッカー小僧と化しており、衛星放送を契約してまで欧州サッカーをテレビ観戦している。ここドイツはワールドカップ優勝経験を3回も持つ強豪国であり、国内リーグ“ブンデスリーグ”はヨーロッパでもハイレベルなリーグの一つでもある。

試合は通常毎週土曜日に行われており、大勢の泥酔者に出くわしたのはその日の夜だった。後々、泊まっていた宿のご主人に聞いた所によれば、ここを本拠地に行っているバイエルンミュンヘンがリーグ2位をキープしており首位攻防



の真っ最中らしい。そして、ようやくそこでビアホール前の彼らの絶叫はその日の勝利が原因だと気付いたのであった。我々日本人にとっては理解し難いかもしれないが、サッカーでここまで笑ったり泣いたり感情を素直に表現出来るのはある意味素晴らしい事かもしれない。

そうそう、その人達を酔わせる直接の原因ともなっているビールのお話をしておきたい。「ドイツと言えばビール。



ミュンヘンと言えばビール」と言われているかどうかは不確かだが、調べ物はめったにする事のない小生がドイツビールの歴史を勉強してみた。ドイツ国内には1200~1300ものビール醸造所が存在し、銘柄にすると5000種類もあるらしい。これは、ビールが運搬と保存が難しい飲み物で、特に中世の昔は保冷設備もなかった為、街ごとにビールを作っていたから、その影響で現在



においても大規模な全国銘柄のビールは少なく地方色豊かな名物ビールが必ずある。ミュンヘンで言えば、何と言っても“バイツェンビール”。別名ホワイトビールとも呼ばれ、上面発酵により製造されている。因みに、日本を含めて、世界中で飲まれている主流といえは下面発酵の通称“ラガー”と呼ばれるタイプのビールである。……なんて偉そうな事を言っているが、正直、どちらが美味しいかの判別はし難い、ドイツで飲めばどちらでも幸せな気分になれる事はわかった。ただ日本と違うのはビールジョッキ。勿論、日本同様にジョッキの大きさや形の違いなどはあるが、バイツェンビールのジョッキは一種類。どのビアホールやレストランに行っても変わらない。そのジョッキの上部には0.5リットルの目盛りが必ずついている。「何故同じ大きさのジョッキしかないのか」という質問に対して答えは一言、「トラディショナルスタイル。」こういう回答は日本人同様に伝統好きで保守的と言われているドイツ人らしい。やはり歴史的に同盟を組んでいただけの事があるのかもしれない。そのミュンヘンで毎年10月に開かれているのが“オクトーバーフェスト”である。簡単に説明すれば、ビールを飲む、ただひらすら飲む、飲みまくっちゃうお祭り。しかし、こんなお祭りをしなくても1年中飲みまくっているのがドイツ人のような気がするが!?

もう一つドイツを体感した物があった。小生のような庶民にとっては憧れでしかなかった“メルセデスベンツ”である。これはミュンヘン空港に降り立つと一足先に入国していた上司と同僚

の社員が出迎えてくれた。それもベンツのワゴンで。空港からホテルに向う道中、車窓から眺めるとベンツ、ベンツ、ベンツ……。しかし、ここまでベンツ一色だと高級感が薄れてしまう。小生も日本を出発する前に国際免許を取得してしまったおかげで運転をする羽目になってしまった。何しろ、ベンツを運転するのが初めてどころか、左ハンドル車自体が初めて。おまけに、何とそのレンタカーはオートマ車ではない。ヨーロッパにおける主流は未だにマニュアル車との事。当然ながら車線も逆である。最初の内は常に気を張りハンドルを10時10分に握り締めるといった初心者時代を彷彿させる運転をしていたからいいものの、少し慣れ出すと生意気にスピードを上げて片手運転などしてしまう。そんな時に交差点に差しかかり「左折」を試みると、癖でおもわず内側に曲がってしまい「目の前に対向車」といった場面が何度もあった。こ



こドイツには世界的にも有名な速度無制限、無料の高速道路“アウトバーン”が存在する。勿論、どこもかしこも速度無制限という訳ではなく、80km規制の箇所も少なくない。ドイツ人は全般的にドライブマナーが非常によく、交通ルールも遵守すると言われている。実際に、速度が無制限な辺りを爽快に飛ばしていて、80km規制箇所に変った瞬間、いきなり前の車のブレーキランプが光る。「啞然」の一言である。しかし、皆がこういったルールを守るからこそ安全にスピードが出せるのかもしれない。アウトバーンは、そういった国民性の上に成り立っている。

最後に仕事の話題を記事にしないと

怒られてしまいそうなので……。4/20(月)~4/8(日)の1週間、ドイツ・ミュンヘンにて“バーマ2001”が開催された。3年に一度開催される世界最大の建設機械国際見本市である。弊社として1986年から数えて6回目の出展となり、京谷社長をはじめ総計8名が参加。全来客数が39万人



を超えるという超ビックな展示会であった。過去の出展は全て屋内展示であったが、今回は初のオープンエアとなった。前半は快い空の下、目玉商品MVH-702 DSRCのデモを繰り返し行い来場者の目を魅了した。しかし、後半は一転して暴風雨。水が溜まった土壌をデモしようものなら、目の前を通る人の“泥かけマシン”と化してしまっていたのである。おまけに、我々が朝ブースに到着すると、隣接メーカーの看板が倒れていたり、はたまたブースの天井から雨漏りしたり…etc. 地元の人に言わせれば「これがまさしくドイツの春の天気。」「これもいい思い出」と考えられる日が来ると信じている。

世界最大の建機展という事もあり、ヨーロッパは勿論、世界各国の代理店の方々及び日本のユーザー様なども次々に足を運んでくれた。「さすがバーマ」と思えた瞬間である。このような場に参加出来た事だけに満足する事なく、次回のバーマでは更に多くの来客者を呼び、更に多くの人の目を魅了する機械を出展する事が今後の我々の課題であり使命であると考えている。

最後に、この展示会出展の成功を導いてくれたローカルスタッフの方々をはじめ関連頂きました皆様には大変お世話になりました。改めてこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

海外営業部一課 小澤記



米国MQ社 社長一行が本社を訪問

6月25日、26日に米国マルチクイップ社一行が来社された。前列中央は今年3月に社長に就任したロジャー・ユリス氏で7年ぶりの来日となる。同氏は、副会長となったレビン氏の右腕として長年営業一筋にその辣腕ぶりを発揮し、現在のMQ社の基礎を築いた人物である。後列は、そのボディガード役としてケビン・コスナーとクリント・イーストウッドばりの安田上級副社長とトー

ステン技術部長であり、来年初めに開催されるARAショーやWOCショーに向けた2002年度新製品の最終打ち合わせを行う為にとともに来日された。米国市場と三笠製品を取りもつ良きアドバイザーとして、又サポーターとして、三笠製品販売の鍵を握る方々で、本社で打ち合わせの後、工場、研究所を訪ね疾風のごとく過ぎた2日間であった。

海外営業部一課 田島記

巨木をたずねて

麻布善福寺の公孫樹

「……樹齢は七百五十年以上」と案内板に彫ってある。

ウーンこりゃ賢い言い方だ。思わずグスッと笑いながら感心した。樹齢表示の新手だろう。これなら疑ったり怪しんだりすることはない。

ここは東京都港区元麻布の善福寺。もより駅は都営地下鉄・大江戸線の「麻布十番」。この新しい地下鉄開通で最高の恩恵を受け、イッキに活性化したのが麻布十番商店街だと風の便りに聞いてはいたけれど、いやまったくその通り。明るく賑やかで通行人も生き生きしている。そして女性がなんだか凄く美しく見える。梅雨の晴れ間のせいかも知れないが……。

善福寺まで駅出口から歩いて年寄りの足でも十五分とはかからない。山門脇の説明版にイワク、「この中門は古くから勅使門と呼ばれる。文永の役で亀山天皇の勅使寺になったとき以来の命名」とある。いきなり大河ドラマ元寇の時代が現われてギョッとしたが、説明の締め括りにイワク「昭和二十年五月二十五日、空襲のため焼失、昭和五十五年に再建された」という。

われらの三笠ニュース余白の読み物、巨木をたずねる二回目として白羽の矢を立てた「公孫樹」は、この勅使



門にすぐ近く、土塀の内側にある。「へえー！、この勅使門が全焼してもこの銀杏の木は生き残ったわけか……」

濃い夏の緑葉をいっぱい茂らせている。樹勢に少しの衰えも見えないが根幹はさすが七百五十年以上という超高齢を露呈している。乳は鍾乳洞を思わせるほど垂れ下がり肌はまるで鮫皮のよう。ひとまわりして背後から覗いたら空洞の奥に黒焦げらしい芯が見えた。空襲炎上の傷跡だろう。

巨木を見ていると癒しを感じる……。心力衰えたり落ち込んだ時には

“三笠”がある風景

東京・池袋
撮影者・管野 源
(三笠産業OB)

[写真募集] “三笠”がある風景、または、あなたの写した自慢のスナップをお寄せ下さい。採用分には心こめた記念品を贈呈します。宛先は本社総務部「ニュース」編集係。



今年も和やかに 笠友会総会開催



5月18日、弊社協力会社の親睦団体である、笠友会の総会が両国第一ホテルにおいて開催されました。

総会ではまず、今回健康上の理由により残念ながら出席出来なかった多羅尾会長に代わり鈴木会長代行が「大変厳しい経済環境の中、今こそ笠友会会員が決意を新たに一致協力して、三笠を盛り立てていきましょう」と多羅尾会長のメッセージを読み上げました。

次に京谷社長より、「公共事業の見直しにより市場規模が縮小している中、販売競争も益々激化している。生き残って行くには全社的なコストの低減と新製品の開発が重要。更に将来的に怖いのは、中国製品等の外国製品の参入

である。これに対処すべく、現在インドネシアに工場の立ち上げを進行させている。また、成長著しい中国市場を睨んだ製造・販売両面からの積極的な対応と、3年間で20%の生産性向上を目標に積極的な展開を進めている。今までの様に頼り合った関係ではなく、お互いが共に発展するために、関係各社のさらなるご理解とご協力をお願い致します。」と挨拶されました。

総会の終了後、江戸情緒豊かな両国国技館に移動し熱気あふれる大相撲両国場所を観戦しました。その後バスで、お台場の見渡せるホテル・メルディアンに会場を移し、懇親会が開催されました。レインボー・ブリッジと東京の夜景を背景に、一年ぶりで再会した会員の皆様や、笠友会会長代行、特別顧問の三笠産業の京谷会長、社長を囲んで和やかに歓談され、全員が日頃の疲れを癒し、気持ちを新たに明日からの努力を誓い合いました。

最後に笠友会幹事の皆様のお世話で、素晴らしい総会になりましたことを感謝し、また来年の第45回総会に皆様と元気にお会いできます様、この一年をがんばっていききたいと思います。

春日部工場 長谷川記

ハッピー21キャンペーン実施中

今、三笠の軽便・電直バイブレーターをお買い上げいただき、ご愛用者カードをお送りくださった方にすてきな特典があります。

- 特典 1 もれなく図書券500円分をプレゼント
 - 特典 2 さらに抽選で毎月3名様に、折りたたみ自転車をプレゼント
- 期間 平成13年9月15日まで

折りたたみ自転車当選者発表(3月、4月、5月各月分)
相沢美江子様(長岡市)、島田隆様(静岡市)、田島卓浩様(玉名郡)、高木茂様(武蔵村山市)、山下晋様(北宇和郡)、山下組様(八戸市)、儀間千枝子様(那覇市)、加藤武夫様(伊都郡)、土居めぐみ様(江別市)
詳しくは三笠製品販売店または弊社営業員にお問合せください。

巨木と対面して語り合うがいい。不景気がなんだ！、不良債権がなんだ！。平然として巨木は歴史を生きている。善福寺は安政六年、初代アメリカ公使館になった。ハリス公使を狙う若き攘夷志士たちの襲撃で、庫裏や書院の焼失という不運にも出遭っている。ハリス記念碑も福沢諭吉の墓も越路吹雪の碑も、この巨木樹下にあつて癒しを受けている。ゴーン、ゴーン……。とつ

ぜん鐘樓の鐘が鳴り始めた。無人のまま撞木がひとりで鐘をついている。薄気味の悪い風景だ。「お小僧不足ですか、人件費節約ですか善福寺さんよ……」と苦言を吐いたが、なお樹下から去りがたいのである。というのは、よく巨樹にありがちなエロチカをここでも発見したからだ。老女のあそこ、かくもあろうか！。まさに国指定の天然記念物・善福寺の公孫樹でありました。

新潟営業所が盛大に オープニングフェア



5月11日(金)、12日(土)の2日間、新潟営業所前特設会場において、記念すべき第一回目のオープニングフェアを平素から大変お世話になっております東京三笠レンタル会の協賛により盛大に開催しました。

この時期が一番良い気候で暑くもなく、また寒くもなく、お客様に三笠の製品群をじっくり見ていただくためにも最高の展示会日和となりました。

また会場も展示スペースに恵まれ、各種の新製品をはじめ、この機会にお客様にぜひ三笠の全製品をご覧いただきたいとの熱意気込みで鉢巻スタイルで準備しました。

初日、展示会場には朝10時の開始前から多数のお客様にご来場いただき、にわかには大童の対応となりました。

ご注目いただいたものはやはり新製品のMT-55型ランマーでありました。

新規設計の三笠独自の六角形高強度専用フートを採用、大幅耐久性の向上と安定化を図るなどその完成度の高さを実際に運転して認識され、又、新製品のMVH-R60型前後進パイロコンパクターも前進、後進時のそのシャープな俊敏性を体験され、その性能に納得していただく等、我々にもその手ごたえ充分でした。

あちらこちらでお客様との商談にも

熱が入り、ランマー、プレート、前後進パイロ、カッター等多くのご成約をいただきました。ご来場下さいました東京三笠レンタル会の会員の皆様をはじめ、お客様には心からお礼を申し上げます。今後とも新潟営業所員一同皆様のお役に立てよう努力いたします。さらなるご支援とご協力をお願い致します。

新潟課 近藤記

活況の仙台営業所 オープニングフェア



平成13年5月18日(金)~19日(土)の2日間、三笠産業仙台営業所に程近い仙台卸商センター管理駐車場内特設会場にて開催いたしました。

当日は、予めご来場をお約束戴いていたお客様はもとより、ユーザー様、販売店様、レンタル会社様など多数のお客様の予想を越えたご来場を賜り、会場内は活況に包まれました。

広い会場には各種新製品や中古機が所狭しと並び、お客様に新製品の特長のご説明やデモ等を繰り返しました。その中でも新製品のMVH-R60前後進型パイロコンパクターに人気が集まり、熱心に質問等を戴き、ご予約も多数頂く事ができました。

更に小型機械の中古機だけでも100台の出品とあって、品定めにも熱が入り、場内での商談も盛大に繰り広げられました。

繁忙期という時期ではないにもかかわらず製品、中古機とも次々とご成約

を戴きました。
ユーザー様の製品に対する様々なニーズにお答えする「もの作り」と言う意味で、メーカーとして製品の改良、新製品の投入に心がけてまいりましたが、今後、新製品を購入戴くことで発生する中古機資産をいかに有効に処分する機会を設けるかということもメーカーにとって重要な課題となってくると思われれます。試行錯誤の中で行った展示会でしたが今回の教訓を次に活かして参る所存です。

東北一課 佐藤記

清水工機(株) 第26回 展示即売会を開催



山梨県の有力販売店であります清水工機(株)様(甲府市高畑1-10-4 清水太社長)におかれましては、6月8日~9日の2日間に渡り山梨県立産業展示交流館通称アイメッセ山梨で第26回の展示即売会を開催されました。

創業も大正年代からすでに80年近くの歴史を誇る山梨県きっての老舗の実力をいかに発揮され、両日に来場者数530社、1,200名の多くを数えました。

出品業者も150社あまりが会場狭しと商品を陳列して、各コーナーで次々と商品成約の声が聞かれ、会社の歴史もさることながら26年間に渡り展示会を開催されてきた歴史の重みを感じさせられました。



当社のコーナーでは60キロクラスでは世界初の油圧機構採用の前後進パイロコンパクターMVH-R60をはじめ、マイコンパイブレーター、ランマー、プレート、カッター等を出品致しました。

初日の開場早々に高周波発電機と電直パイブレーターが受注になるなど、2日間でありとあらゆる商品が受注になり、お陰様で当初の目標に到達することが出来ました。

これも偏に、清水社長様をはじめ社員の皆様への三笠に対する心温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。次第でございます。有難うございました。

山梨課 土屋記

三笠クイズ VOL.42

【問題】 タテとヨコのかぎを解いて1~5の文字をつなげると、夏らしい言葉が浮かんできます。さて何でしょう。

A	B	C	D	
イ	4			
ウ			エ	5
3オ			カ	2
キ				

ヒント
ヨコのかぎ
ア. もうすぐ楽しい○○○○○。あなたの会社、今年は何日間ですか?
イ. ○○○○の蛙大海を知らず。
ウ. ゴッホは「炎の○○」と言われた。
エ. 寅さんは葛飾柴又帝釈天で○
カ. 変な帽子をかぶって虫○○網を持った少年と言え夏休みの原風景でしょう。
キ. プーチンさんはどこの国の大統領でしょうか。

タテのかぎ
A. 親を○○○○○にするとはけしからん。
B. 結婚式のとき花嫁さんが頭に巻きます。
C. 木・竹などをならべて水流をせき止め、魚をとる仕掛け。採れたての鮎を食べながら飲むビールは最高です。
D. もうすぐ甲子園、球場にはプロ野球の○○○○○達の目も光ります。
E. 薄い鉄板に錫をメッキしたもの。これで出来たおもちゃに懐かしさを感じる人は多い。

応募の方法 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえご応募ください。正解者には抽選の上10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-3

三笠産業株式会社
「三笠ニュース」編集部

●締切り 2001年8月27日(消印有効)

VOL.41の答えは「リサイクル」でした。次の10名様に図書券をお送りしました。田口岳(都留市)八木悦子(比企郡)宝生戸宏美(小山市)中島秀樹(留萌市)野末二郎(静岡市)沖山光子(八丈島)山口弘実(南陽市)小野史貴(世田谷区)持永幸浩(大和市)南條裕子(飯塚市)

いげたさやか
氏名 井下田沙弥香
生年月日 昭和51年10月22日
出身地 埼玉県
所属 海外営業部一課
家族 独身



—日頃どんな仕事をしていますか?
海外営業部一課に所属し、北中南米、ヨーロッパ、アフリカの各営業担当の業務が円滑に出来るようサポートを行い、一部の販売地域の製品の出荷業務を担当しております。

—今最も関心を持っていることは何ですか?
自分の好きな作家の小説の中に度々登場し、どんな味がするのだろうという興味本位から「カクテル」に関心があります。

小説では味わうことのない、カクテルの「色」や「味」を堪能しようと店を訪れたり、インターネットに掲載されているレシピや、古本屋を覗いて古いカクテルの書物を見ながらその時代のカクテルを自分でシェイカーを振って飲んでみたり、オリジナルカクテルを作ってみたりしています。

—お客様に一言どうぞ
最近「シャンパン」ベースの「ミモザ」がとても好きです。是非、皆様もお試しく下さい。

—お客様に一言どうぞ
三笠に入社し、早5年という月日が流れましたが、微力ながら専心業務に精進いたしたく存じますので、今後とも、ご指導の程宜しく申し上げます。

我ら三笠グループズ



きむらひろみ
氏名 木村裕美
生年月日 昭和52年2月25日
出身地 埼玉県
所属 生産管理部資材課
家族 独身

—日頃どんな仕事をしていますか?
主な仕事は、支給部品・工場製品の仕入れ業務と請求書の処理や、製品につける銘板・取扱説明書の発注・管理及び、お取引先への注文書の発行を行っております。また、協力会社の親睦団体である笠友会の事務局業務等も受け持っております。

—今最も関心を持っていることは何ですか?
2年前に香港へ行ってから海外旅行に興味を持つようになりました。海外へ行くとさまざまなカルチャーショックを受ける事ができ、一度味わうと色々な国へ行ってみたくになります。その影響も有り、海外向けの雑誌を読んだり、テレビで海外特集を見る事が多くなりました。最近ではインターネットで、検索することも時々あります。機会があれば、自由の女神や情報最先端の街の「ニューヨーク」へ行って見たいです。日頃のストレスも解消され、また新たな気持ちで仕事にも打ち込めると感じます。

—お客様に一言どうぞ
今年で入社して5年目を迎えました。まだまだ至らない所もありますが、ご迷惑を掛けたくないよう努力致しますので、宜しくお願い致します。